

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200418		
法人名	株式会社トゥルーケア		
事業所名	トゥルーケアGHひなげし		
所在地	埼玉県川口市東川口1-5-44		
自己評価作成日	令和5年3月14日	評価結果市町村受理日	令和5年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の立場にたって寄り添う心もって、日々明るく楽しく安全に暮らせるよう支援している。家族や地域のつながりを大切に、常に誠実に対応している。  
職員一人一人がチームケアで笑顔の絶えない明るいグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「常に利用者の立場に立ち、寄り添う心を持ってケアしていきます・笑顔の絶えない、安心できるホーム作りを目指します」などの理念のもと、昔話に盛り上がり、職員と共に掃除に励むなど、利用者へ寄り添い、コミュニケーションを大切に支援に取り組み、利用者の健やかで、穏やかな暮らしに結び付けられている。  
・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。  
・目標達成計画の達成状況については、火災発生を想定し、初期消火など基本訓練に取り組みされるほか、職員の勤務体制が少ない夜間帯での対処策や備蓄品の確保などに取り組みされていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひなげし基本理念に基づき、朝、唱和することで意識共有している。地域と触れ合えるよう、寄り添う心を持ち対応するよう、日々努めている。	「常に利用者の立場に立ち、寄り添う心を持ってケアしていきます・笑顔の絶えない、安心できるホーム作りを目指します」などの理念のもと、利用者に寄り添い、コミュニケーションを大切にした利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との付き合いはコロナ禍で減少しているが今後緩和されまた以前のように参加させていただいたり交流ができることをすすめていきたい	最近では自粛をされているが、自治会活動への参加、ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう基盤づくりに努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で自ホームでおこった自家、出来事を含め伝え理解していただけるよう努めている。町内会の当番も行き認知症グループホームとして地域貢献はまだまだであるが認知していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部からの大切な意見、を頂ける場として、今後も大切に、ひなげしの内情を知っていただく機会として地域と交流し協力しあっていきたい。	運営推進会議は、現在は書面での報告がなされ、地域包括支援センターほか会議構成メンバーに送付し、情報の共有を図られると共に、意見・アドバイスを受け、事業所運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは連携しメール等で情報をいただき対応したりコロナ禍ではいろいろ支援していただき協力関係を維持している。	報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られるほか、感染症対策の情報提供や抗原キットの支給など、良好な関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に行いスタッフ全員で理解して、拘束しない取り組みを行っている。	法人研修や身体拘束適正化委員会が定期的に行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、行動抑制をしないケアに取り組まれている。またスピーチロックへの理解については特に力を入れて研修をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等開き虐待についても話し合い事業所で確認し合っている。スピーチロック防止に力をいれ、その考えを皆で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中で成年後見制度を利用されている方もおり参考にさせていただき、今後も勉強会を開き深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、施設を御家族・本人に見学して頂き、十分に説明を行った上で納得して頂いている。改定の際は説明会を設け、理解納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に来苑した時に家族の方と積極的に話をして、要望や意向を反映するように努めている。	利用者とは日常の関わりの中で話を聞き取り、適宜対応されている。家族とは面会時や定期連絡の際に意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームとしての職員の意見や提案は直接進言するのではなくホーム内で話し合ってから全体会議に持っていく吟味検討される。	定例会議のほか、日常業務の中でも話しやすい職場環境が作られ、意見・提案の聞き取りをされ、利用者との関わりやケアプラン等に具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握しシフトの組み合わせなど円滑に回るよう考慮したりしているが人員不足などの課題もある。自己評価シートによる自己アピールの場は設けている。労働契約は賃金等は少しずつアップされるよう考慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの関係もあり外部の研修は縮小されているがホーム内での研修は定期的におこなわれている。日々の勤務や経験をとうしてより良いケアを目指し向上心をもって取り組む姿勢を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修で他グループホームとの意見交換はあったがコロナ禍で自粛している。今後は少しずつ開催されていくと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人の要望、希望を伺い安心して過ごせる居場所になるよう環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろん、家族の意見は優先されるものと考えている。ご家族よりの要望などしっかり聞き、利用者様の様子もお伝えしながら信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全て親身になって話し合ったうえで、今必要とされるニーズに重点を置き適切なサービスが提供できるよう支援、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の考えを押し付けるのではなく、本人との会話を中心にその思いに近づけるよう職員は寄り添う気持ちで家族の一員として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見を聞き、また本人の意見気持ちを尊重しながら、その間を取り持つような立場で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接かかわる事が難しいとしても、忘れることのない思いで、出来事を本人との会話の中で回想し心の繋がりが途切れないように努めている。	現在はコロナ禍の中、自粛をされているが、友人・親族の面会、初詣や花見、馴染みの店での買い物など、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの気質、習慣を把握し気の合う関係、距離を取る関係を考慮し利用者様が心地良く暮らせる空間を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方も、その後の様子を尋ね、暮らしぶりを伺ったり、元気に過ごされているか確認する等電話や書類郵送時一言添えたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人その一人一人に本人の気持ちになって希望要望も聞き話し合っって対応している。困難な方は表情等から気持ちを読み取りながら把握している。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。困難な利用者についても、日頃の関わりの中で、表情や仕草などから汲み取られ、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者情報の内容を把握しそれぞれの生活環境の違いがあり、個別の支援の必要性を理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が観察し記録に残し必要なら申し送りで共有し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにおいて介護計画の見直しを行っている。そこでより現状に合った介護計画を立案・作成している。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化に気づき記録する事で情報の共有を行い、必要な対応については迅速に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず、地域資源や必要なニーズにはすぐに対応出来る様に努めている。特に医療面においては迅速に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でお祭りなどの地域交流は減少したが、常に意見を交換しながら行事などみなで力を合わせ支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科往診は月2回実施し受診が必要な方は家族の希望を重視しながら、地域の病院で医療が受けられるよう支援している。常に往診医と連絡、相談し勤めている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をして頂いている。医療に関する情報の共有や主治医との連携に力が入られており、適切な医療を受けられるようサポート体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護で現状を伝え相談し指示を仰いでいる。必要時には申し送り等で職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は定期的電話にて、様子や治療の状況等を家族や病院の医師、看護婦を通して把握したりしている。今はコロナ禍で家族に聞きながら受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要な方は入院して頂いている。本人と十分に話し合い、家族とも情報交換し、職員全体で共有し、施設で長く生活出来るよう医師・看護師等と連携をとってチームで支援している。	入居時に事業所が対応し得るケアについての説明が行なわれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も状況に応じて、医師・看護師と連携のもと、重度化や終末期支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないのが、急変や各症状の対応の仕方のマニュアルを作り職員で共有している。事故報告などはカンファで改善策を話し合い防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。地域の参加はなかなか得られていないが、運営会議を通じて呼び掛けていきたい。1Fのホームクリニックの看護師さんの参加は得られた。	定期訓練では、火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれるほか、食料・器材などの備蓄品やライフライン寸断時の対策など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣いには気をつけるよう指導している。上から目線や中傷的な言葉遣いをしないよう職員全体で努めている。	利用者のリズムに合わせた対応、入浴時や更衣時の羞恥心への配慮など、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわぬよう気遣いを持つなど、きめ細かな対応が取られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がどうしたいのか、会話や傾聴を通じて自己決定出来るような雰囲気づくりに努めているむつかしい事であれば丁寧に説明し理解して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人個人個人の都合に合わせて日々の活動のなかで参加したくない時もあり意向にそって臨機応変対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際洋服を本人に選んでいただき、介助は必要であればそれに応じてお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが各テーブルに入り、会話などを通じて楽しみながら食事をしている。お手伝いできる利用者様にはお盆拭き、茶碗拭きをお願いしている。	利用者の個々の状態に合わせて、食事の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。利用者の希望をお聴きし、パンが提供されたり、ホットケーキやおはぎを楽しまれるなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人個別に食事摂取量・水分量を記録し、1日の必要量を無理なく摂取出来るようお好みの物を用意提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様全員に口腔ケアを行い、清潔保持している。歯間ブラシ、舌の掃除なども行っている。出来る限り本人に行っていたり、困難な人は一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体操など普段の運動や、足上げ、立ち上がり運動等行っていただき、最終的にトイレの排泄を目指している。立位の不安定な方は一部介助することでトイレで排泄が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操やレクなどで体を動かす機会を多くとりいれている。水分摂取をして頂いたり、排便を記録し観察している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本2～3日の間隔で実施しているが時には拒否される方もいる。無理強いすることなく後日をお勧めしたり清拭を行ったりしている。	利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。現在の一部利用者の状況から湯船につかることは出来ず、シャワー浴となっているが、職員複数での介助など、安全で安心な支援体制のもと入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調によって適度に臥床して頂いている。居室内の温度や掛け布団の増減などで気持ちよく眠って頂けるよう支援している。その人の生活リズムに合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報をつけて各職員が服薬の目的や副作用について共有できるようにしている。誤薬がないように服薬の際には必ず2人で確認する事を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが出来る利用者様にはお盆拭き・洗濯物たたみ等で役割のある生活が出来るよう支援している。みんなで楽しめるレク等で、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は少し難しくなっていたが、少しずつづつ緩和されていくと思われまます。花見会などの行事を企画したり買い物から共に外出の機会を増やしていきたい。	コロナ禍で限定されるが、事業所周辺での散歩や玄関ホールでの外気浴のほか、花見や買い物など、外気に触れる機会を持つよう支援をされている。	感染予防の為、外出の制限をせざるを得ませんが、過度の自粛による心身の不調も懸念されます。感染予防に留意しながら外出の機会を確保する取り組みに期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお預かりしている中で、本人の希望があればいつでも使える用意はしてある。買物時に金銭のやり取りを支援した。職員が代行し希望の品を購入してくることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話のなかで本人が話をしたいときはいつでも取りついでいる。望めば手紙なども支援できるが、年賀状程度にとどまっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものを利用者様と作成して飾ったり、音楽を流したりして居心地よく過ごせるような空間作りに努めている。矢印などでトイレの場所をわかりやすくしたり、自室に花をつけ間違わないような工夫したりしている。	共用スペースは、華美に飾ることなく、家庭的な雰囲気を大切に落ち着いた設えとなっている。また、リビングにはソファや畳敷きの小上がりがあり、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い利用者様同士にて席位置を工夫している。もちろん自分の席以外でも移動していただいている。テレビの見やすいところに椅子の用意をし観戦いただいたり、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設に入所する前に使用していたものは、そのまま使用して頂いている。椅子や仏壇等、本人の意向に沿って配置している。	馴染みの筆筒や好きなテレビなどが持ち込まれ、利用者が落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、清掃のほか換気や消毒を行うなど、清潔維持と感染症予防対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室には名前を書いて分かるようにしている。トイレに矢印をつけたり、キッチンドアを開閉することで安全に配慮したり、危険を回避している。		

(別紙4(2))

事業所名:トウルーケア グループホームひなげし

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 6月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	施設内で過ごす事が多く地域とのふれあいや外出の機会が少ない。	地域との触れ合う機会を作る。外出を兼ね買い物を楽しみながら散歩する。	①一本木町会サロンに毎月参加する。(カラオケ、地域の方とのお話、イベント、お菓子を楽しむ) ②毎月近くのお店に散歩がてら好きなものをスタッフと一緒に買い物を楽しみ、全員が一巡するよう表にする。	1ヶ月
2	35	自然災害時避難場所に安全に誘導する方法 ①移動手段における問題 ②人員の確保	①近隣の協力が得られる。運営推進会議や地域包括との交流時、状況説明や話し合いの場を持ち協力体制を構築する。 ②(水害、土砂災害時)安全に高台である自治会館に非難する。車椅子対応者10名、歩行可能者8名)	①自然災害における業務継続計画を作成する。 ②必要物品の確保(土嚢、備蓄品、衛生用品) ③研修訓練の実施 ④BCPの検証、見直し	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。